

【1 現状と課題】

- 現在の大津港は、昭和60年に定めた「大津港整備基本計画(全体計画)」に基づき整備されたが、平成11年3月の概成から25年以上が経過し、施設の老朽化が進行している。
- また、とりまく社会情勢の変化(災害時における港湾の役割拡大、温室効果ガス排出削減、サイクルツーリズムの拡大や疏水船乗入れ等の活性化の兆し)に対して、現状の施設では応えられていない状況にある。
- この現状に対し、今後、大津港をどのような港湾としていくのかが定まっていないことが課題である。

【2 施策の進め方】

- (1) 基本構想策定
 - まずは、大津港のあるべき姿を見据え、大津港の活性化と再整備を推進するため、取組の礎となる「大津港活性化・再整備基本構想」の策定を行う。
- (2) 基本構想の概略
 - 現状や課題の整理を再度行った上、以下のような内容を記載した基本構想を策定する。
 - ・ 構想期間: R7から概ね20年~30年の期間
 - ・ 対象範囲: 大津港の陸域及び港湾施設である水域(泊地および航路)
 - ・ 取組主体: 港湾管理者、大津市および関係の企業・団体等
 - ・ 内容: 大津港の今後のあり方(目指す姿、空間利用の方針、施策展開(大津港へのアクセス、防災機能の向上等を含む)、推進体制等)
- (3) 今年度の取組
 - 基本構想の策定のため、関係者同士の意見交換を目的とする検討会を設置
 - 基本構想策定を行うための調査・分析を委託により実施
- (4) 今後の展開
 - 構想策定後、港湾管理者(県)では既存施設を最大限活用する再整備などの実施方針の決定及び基本設計の実施(R7~)に取り組む。
 - 令和7年度以降、基本設計が整い次第、順次、施設の改修・修繕に取り組む。
 - 大津市では同時並行して、「官民連携まちなか再生推進事業」による大津港周辺のエリアプラットフォームを構築(R6~)、順次同地域の「にぎわい創出ビジョン」を策定される予定。
 - また、令和9年12月の新・琵琶湖文化館の開業に先立ち、令和8年度中には大津港を「みなとオアシス」に登録できるよう、市と連携し、運営の担い手となる組織作りに取り組む。

